

当 地 の 戦 災

昭和19年からはじまった空襲は翌20年に入って激化し、日本の重要都市はほとんどその洗礼を受けて、焦土と化した。当地方へもこの年6月15日、米爆撃機29が淀川沿岸を北上し、途中各所に焼夷弾を投下した。

仁和寺の中西ベアリング工場が軍需工場なのでこれを投下目標としたらしいが、弾はずれて仁和寺から葛原のたんぼの中に落ち、仁和寺では東光治方に12発、八畳一間を焼いたのみで消し止めた。また、黒原の乾潔方は全焼し、葛原では中川喜次郎、松浦竹次郎、浅田秋造と集会所が全焼、外に北口兼吉方は屋根のみを焼いた。

木屋の淀川左岸土地改良区のでき上ったばかりのポンプ場が焼けた。田井では南与右衛門方付近の堤防に落ち、また、中木田から神田飛地（現京阪車庫）に至る中間の水路付近に1トン爆弾が落下して大穴をあけた。その時、付近で牛耕中の山下老人（神田）が爆死し、牛だけが主家にたどりついて人々の涙をそそった。

走行中の京阪電車も停車して乗客は堤防に避難中、学生2人が負傷した。また、仁和寺阪口利一の娘は守口の松下病院で退院準備中を飛行機からの銃撃を受けて死亡した悲劇もある。都会と異なり、当時まだ農村であった当地は戦災といってもこの程度で、都会の悲惨な被害に比ぶべくもない。

（昭和41年11月に発行された寝屋川市誌より抜粋）



編集：寺西郁雄

発行：寝屋川市

寝屋川市本町1番1号

電話 072-824-1181

F A X 072-825-2078